

後列左から高松、金山、上野、守次、松村、今林(病死)、石田(戦死)加勢田、速水監督(事故死)、手島部長、田中(戦死)、吉田、中牟田、丸林(戦死)、松井、森山、古賀(戦死) 前列左から豊田、中村、松永、猿渡、吉岡(戦死)、青柳(病死)、湯浅(不明)、太田(戦死)、松下、鎌田(戦死)

#### 42 期メンバー

■ 3 年生 松下栄三郎・金山 正春 中村 哲夫・森山 繁

谷知 宏一

■2年生 加勢田太郎・大長 孝徳

豊田 好美・小山 元治 松村 義人・守次金右衛門

八木 隆輔·吉田 薫

太田 賢三・石田 耕治

鎌田 博行・丸林 勘一

今林獅子狼

■ 1 年生 鎌本 勲·多良 勝

森山 一男・橋本 啓造

田中 正一・橋本 豊

高本 保孝・許山 秀哉

半田喜兵衛

本年12月8日大東亜戦争勃発。

銅鉄の回収が始まり、総合防空訓練が始ま る。戦果は華麗だったが日常生活は日増しに 窮屈になっていった。

#### ■昭和 16 年 10 月 21 日 (福岡 G)

九州帝大対西南学院ラグビー戦は、福高 商、九医戦に引続き午後4時10分から酒井 氏主審、松井、小川両君線審の下に九大先蹴

西南学院  $25\begin{pmatrix} 11-5\\14-8 \end{pmatrix}$ 13 九 大

で開始、25対13で西南快勝す。

#### ■昭和 16 年 11 月 16 日

(日鉄G/R・平田)

西南、製鉄を撃破!!

西南対製鉄のラグビー戦は16日午後3時から戸畑市日鉄鞘ケ谷グラウンドで主審平

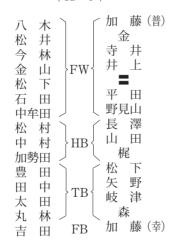
田、線審内田、湯浅西南先蹴で挙行。八幡製 鉄は主力選手を兵営に送り込んだ上に、生産 に全力を上げるための職場配置により、後 半、日頃の練習不足のため崩れ、結局 37 対 0 で惨敗した。

西南学院 37  $\binom{8-0}{29-0}$  0 八幡製鉄



#### ■昭和 16 年 11 月 25 日

西南学院  $60 \begin{pmatrix} 28-0 \\ 32-0 \end{pmatrix} 0$  大分高商



実力の差とはいえ、前半後半一度の機会さ えもつくり得なかった大分高商の闘志の欠如 は些か不甲斐ないと言わざるを得ない。

最高学年選手の不出場も西南チームに何等 の不安のないことをこの試合で十二分に示し た。殊に後半12分頃から見せたFWの突込 みとウイングの配球好パスなど流石に九州高 専ラグビー界のナンバーワンとしての貫禄を 示していた。

#### ■昭和 16 年 11 月 29 日

《全国高専大会九州大会準決勝》

○第1試合

西南学院  $20 \begin{pmatrix} 6-3 \\ 14-6 \end{pmatrix}$  9 福高商



戦評:学徒出陣の影響で試合前両軍メンバーの急激な変動で西南の楽勝が予想されていたが、いざ蓋をあけて見ると福高商の意外な活躍に試合は俄然白熱化、前半27分西南が左ウイング豊田の独走で高商陣寸前まで攻め1回スクラムからルーズを繰返してのち再びスクラムでスクラムトライに成功すれば、高商は西南の直線的にもろい所を狙って盛んに突込み22分ルーズのまま突込んでトライを応酬するなど接戦を演じ、結局6対3の切迫したスコアで前半終了したが、後半さすがに西南の地力がものをいって着々得点。20対9で西南の快勝する所となった。

○第2試合、九医勝つ

九 医 
$$10 \begin{pmatrix} 0-6 \\ 10-3 \end{pmatrix}$$
 9 明 専

#### ■昭和 16 年 11 月 30 日

《決勝戦》 西南、優勝す

西南学院  $34\begin{pmatrix} 21-10\\13-0 \end{pmatrix}10$  九 医

この予選大会は、1 年先輩(昭和 16 年度) が繰り上げ卒業となったので新メンバー(1 ~2年生)で戦った。

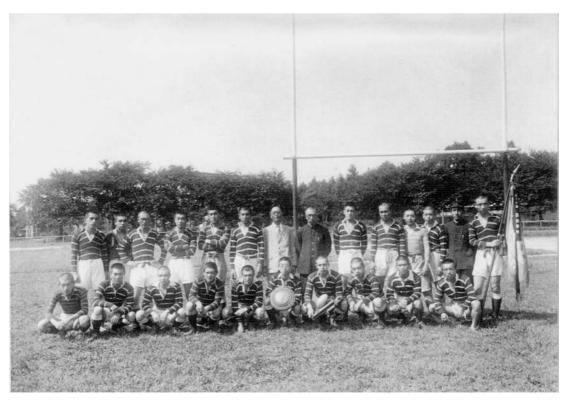
#### ■昭和 17 年 1 月

この年の全国大会は東西に分離。南甲子園 の関西大会と春日原の九州大会という変則大 会が実施された。 九州大会には外地代表として鞍山中学、満州医大が来福、変則全国大会のため得をして 浮上したのが地元チーム嘉穂、福商、福中および明専、九医、福岡高商であった。戦績は次の通りであった。

(春日原G)

準決勝満州医大6-6九医福高商9-3西南学院決勝戦福高商40-3満州医大

大会運営方針の変更で非常にプラスとなったのは福岡高商であり、西南を破りこの年の 九州大会の覇者となった。



昭和16年11月30日(九州代表権獲得)優勝戦後の記念撮影

## 昭和16年卒·松下栄三郎

#### 福商-西南-兵後

海軍飛行専修第13期学生、鈴鹿基地 にて中尉に任官、攻撃405飛行分隊士で 搭乗機、銀河、にて迎撃待機中、玉音放 送を聞き翌々日帰隊。木更津海軍航空隊 から復員帰福した。

#### (軍隊とラグビーの猛特訓は?)

一概には言えないが、短時間では西南ラグビーが厳しかった。又ラグビーで一番強い思い出はやはり速水監督の人間性と思います。昭和47年発行の、九州ラグビー史、に……天理外語に敗れ、翌7年も全国大会連続出場するが満州工専に涙をのんでいる。この草分け時代の無念さが、西南学院卒業後の速水を、西南の伝チャン、として、母校後輩の指導の、鬼神、に変化させた……と記してある。

その後、速水さんに接した現役は、練習のハードさを思い知らされた事だろうが、ラグビーは極限の鍛錬を越えないと、試合に勝つことが出来ないのは当然であるが、速水さんにはひと味違った人を引き付ける魅力があり、同氏は私の兄や義兄と旧友で、親近感もあったが、人を見る洞察力は優れたものがあり、ユーモアの中にも厳しく心をえぐられた事もあった。

然し、如何に叱咤激励しても、その本人の顔を立てるという、人情味豊かな方で、元来のネアカに加えて、これが等しく多くの人々から、慕われた所以であったろうし、私の現役の頃、何度かお宅へ伺い、料理を頂いた事もあったが、茶の間には、泉鏡花全集、があり、これも料亭という商売柄とはいえ、同氏の一面を覗いた思いもする。

後輩の指導に、己の職業家業よりも優先して尽くされ、遂に何度となく \*西南ラグビー、を日本一に導かれた \*伝チャン、に衷心より感謝の意を捧げます。

しかし、ラグビー宿舎では同期の金山のギターを楽しみ、練習帰りには、おきまりの喫茶店にメンバーで行った事が楽しい思い出となっている。逆に一番苦い思い出は、昭和16年11月29日福岡高商を20-9で破り、11月30日九州医専を34-0で破り九州代表となっていたが、愈々全国大会になって、この大会が東西に分断され西部大会があらためて、春日原で開催された、この変則大会のために、昨年秋に西南に敗れた福岡高商が再度浮上し西南が敗れた事である(9-30)敗因はチーム力がありながら慢心油断の結果である。今もこの悪夢が忘れられないでいる。

## 昭和16年卒・金山 正春

故速水監督にまつわる思い出と申しますと、あれこれと沢山あり過ぎて選択に悩まされますが、或は、大げさに言いますと、私の生命に拘わっていたかもしれない事があります。

実は、昭和17年秋、戦争が熾烈になり、 学生の繰上げ卒業が布告され、皆兵役に 就く事になりましたが、早生まれの私は 兵役適齢期に達しておらず、従って、入 隊の義務もありませんでしたが、心では 皆と一緒に出征する覚悟でいました。

ところが、そこに朝鮮鉄道局のラグ ビー部におられた、富永武士(福中 OB) 先輩から鮮鉄ラグビー部に入部す るように勧誘を受け、兵役を逃れて? 卑怯者と言われたくもなし、一方では現在の国体の前身である、明治神宮大会の強力な鮮鉄チームの一員にもなりたいという願望もなかったとは言えません!

色々と考え悩みましたが、速水先輩の「戦争は1年や2年で終わりゃせん! お前やァ関東、関西の大学卒選手が多か鮮鉄チームに入っても、負けやせん。 充分やっていけるし、何んも死に急ぐ事

はなか……西南の名を上げて来やい!」の一言で決心し、入部しレギュラーになる事ができました。この事で私は特攻出陣もなく済みましたが、考えようによっては卑怯者の弁解のようにも聞こえますが、あの一言で私は命拾いをして、楽しい鮮鉄ラグビー部の生活を味わいまし

た。本当に感無量であります。



左より森山、松井、中村、鶴丸、速水監督、金山、松下

# 第 43 期 (1942 年度)



明大専門部と激闘を演じたチーム

#### 43 期メンバー

■ 3 年生 加勢田太郎・大長 孝徳

豊田 好美・小山 元治

松村 義人 · 守次金右衛門

八木 隆輔・吉田 薫

太田 賢三・石田 耕治

鎌田 博行・丸林 勘一

今林獅子狼

■ 2 年生 鎌本 勲·多良 勝

森山 一男・橋本 啓造

田中正一・橋本豊

高本 保孝・許山 秀哉

半田喜兵衛

■ 1 年生 松田 百弘·大塚 泰彦

山崎 八郎

16 年 12 月、繰り上げ卒業で 12 名の部員を失ったラグビー部は  $1 \sim 2$  年生でラグビー部を運営。チーム立て直しに努力したが昭和 17 年 5 月、7 人制大会にて優勝し、その第一ステップを踏んだ。

#### ■昭和 17 年 6 月 28 日

全九州高商ラグビー大会

#### **★**1回戦

西南学院  $72\begin{pmatrix} 30-0\\ 42-0 \end{pmatrix}$  0 長崎高商

#### ★優勝戦

福岡高商  $19\begin{pmatrix} 8-0\\11-5 \end{pmatrix}$  5 西南学院

### ■昭和 17 年 8 月 19 日

早稲田大学来福、全九州学生選抜軍と対 決。早稲田大学 25 (16 - 3、9 - 14) 17 選 抜軍のスコアーで敗れているが、天下の早稲 田大学に対するこのスコアーは立派。この日 の選抜軍の健闘を讃えたい。

早稲田  $25\begin{pmatrix} 16-3\\ 9-14 \end{pmatrix}$  17 選抜軍



\*安永は福中の○B、▲は西南、●は福高商

開戦早々より選抜軍の闘志は烈火の如く早大に迫り、殆んどのボールを支配下におき、6分いち早く早大陣左隅ルーズの球を山内とってトライをあげ3-0として気勢を上げた。早大は次第に調子を上げ17分鮮やかにTBパスでトライを酬い3対3。同点に漕ぎつけ、更に20、23分とスピーディーな展開を示し連続的にトライを加え、その本領を発揮して16対3と大きくリードして前半を終わった。

後半に入るやバックに優勢な早大が 脚力を発揮、29分には25対9と大きく リードをしたが、28分頃からよく選抜 軍食い下がり松村の機敏な動きがトラ イを得、更に豊田が独走50ヤードにお よぶ快心のトライに25対17と迫った が、遂におよばず惜敗した。

(「福日新聞」より)

#### ■昭和 17 年 10 月 5 日

西南学院  $74\begin{pmatrix} 27-0\\ 47-0 \end{pmatrix}$  0 福岡拓殖 専門学校

#### ■昭和 17年 11月8日

西南学院  $25 \begin{pmatrix} 8-12 \\ 17-13 \end{pmatrix}$  25 九 大

九州学生ラグビー界の王座決定戦とも見られる九大対西南の試合は春日原競技場で斉藤主審のもと開催。

両者譲らず 25 対 25 で引き分けた。

学生は繰り上げ卒業。入隊を控え双方万感 の思いで出陣前の試合をしたと思う。

#### ■昭和18年1月2、4、6、8日

#### ○第 18 回高専大会(花園 G)

今回からは戦時色を現わして日本体育協会 にとって替った大日本学徒体育振興会の主 催、文部省の後援という形で行われることと なった。

又高等学校を分離し、且交通事情の悪化等 から朝鮮、満州からは代表チームを出してい ない。

物資不足から新聞紙面が大巾に削減せられて、これに伴い運動欄も縮小せられて1回戦、2回戦はスコアだけ、準優勝戦はスコアはメンバーだけが掲載され戦況及び概評は掲載されていない(但し同志社高商対天理外語の試合は近畿同志の試合ということで概評が掲載されているので本書でも掲載することにする)。

#### ★第1回戦 昭和18年1月2日

明大専門  $38\begin{pmatrix} 19-0\\19-0 \end{pmatrix}$  0 松山高商

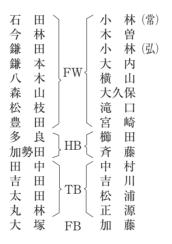
函館水産(不戦勝) 神戸商船

#### ★第2回戦/昭和18年1月4日

台北高商 
$$15\left(\begin{array}{c} 9-3\\ 6-8 \end{array}\right)$$
 11 慶応予科 西南学院  $51\left(\begin{array}{c} 17-0\\ 34-0 \end{array}\right)$  0 東北大医専 同志社高商  $27\left(\begin{array}{c} 11-0\\ 16-6 \end{array}\right)$  6 天理外語

#### ★準優勝戦/昭和18年1月6日

西南学院  $37\begin{pmatrix} 16-0\\21-0 \end{pmatrix}$  0 台北高商



#### ★優勝戦/昭和18年1月8日(R·杉本)

明大専門部  $17 \begin{pmatrix} 9-8 \\ 8-3 \end{pmatrix} 11$  西南学院

概評: 2時西南の先蹴で開始、西南3点の リードを明大よく6-3と返せば、西南さら に8-6と逆転、その間西南の罰蹴が明大のゴールポストに当り失敗。西南の攻撃は大いに見るべきものがあった。前衛の押しにおいて、後衛の連絡において、強豪明大に一歩も譲らざる実力を示した西南ではあったが、明大の戦いなれたプレーには遂に敗れざるを得なかった。地の不利や指導者の貧困のうちでこれだけの力を育みあげた西南の鍛練は称賛されてよい。

(「大阪毎日新聞」より)

## ●想い出の記

#### 昭和18年卒・加勢田 太郎

創部間もない西南は、昭和6、7、9、16、 18年と全国大会に出場。特に昭和18年明大 専門部と互角以上の健闘を演じ全国の注目を 浴びたが名声の陰に公私共、西南ラグビー、 に賭けた速水監督を忘れてはならない。支那 事変より昭和12年から昭和20年にかけて軍 事情勢が極端に窮迫したが、ラグビーは闘球 と名を換え予科練に採用された。西南ラグ ビー部の先輩は陸海空に参戦、多くの戦死者 を出している。私は、昭和18年久留米48連 隊に入隊、関東軍・台湾軍に所属、辛酸極限 の世界を体験した。支えたものは同胞愛・戦 友愛・祖国愛―その基盤のラグビー精神。 One for all. All for one. であった (ただし 徒らな戦争賛美ではない)。生涯を通じて決 して忘れられない痛恨の思い出は、昭和16 年1月の中等学校全国大会で第1試合で石本 善吾選手が昏倒し西宮回生病院で死亡。雨中 の決勝戦に喪章を付けて激闘したが台北一中 に0対3で敗れた事である。

西南学院時代では、昭和18年の全国大会 ~明大専門部と激闘、僅差で優勝を逃した事 であり、この新聞記事の批評に西南の実力 は、関東関西と互角との記事であった。その 頃、戦時下の台湾駐屯中ラグビーの神様の導 きで、福岡24連隊経理部幹部候補生斎藤守 隆君と奇遇した事も奇跡的な思い出であっ た。福中、西南、配炭公団、九電、九州代表 とラグビーを堪能したが、今後西南は真の ラグビー狂集団に変更し、One for all All for one の西南ラグビーを復活して欲しいも のである。



# 一番口の悪いのは天下一品でした……

昭和18年卒・小山 元治

私が西南学院在学中は、丁度昭和16年から18年の繰上げ卒業迄でしたが、まだラグビー熱は盛んで、九州では西南と福岡高商(福大)が、その覇を競っていました。勿論、速水監督の全盛時代で、私共の指導は厳しく、口の悪いのは天下一品でした。然し、監督は常に天真爛漫だったので、氏を恨む者はいませんでした。

氏ほどラグビーを愛し、後輩のラガー達を 可愛がった方はないと思います。私の友人で 嘉穂中学から明治に行った者の話として、「戦時中、なかなか汽車のキップが買えないとき、速水さんの所に行くと、「おお、嘉穂か!よかよか、待っとけ、何枚か?」と言って、手に入れたと語った事がありますが、この事は速水監督を語る素晴らしいエピソードの一つで、多くの人がこの恩恵を受けられたのではないのでしょうか!

西南の OB 会にもご無沙汰していますが、 良き部史が出来るのを期待してます。



70周年に際して

速水さんは小生にとって、 尊師でも唯の先輩でもなく、 最も身近な師匠でした

昭和18年卒.八木 降輔

この度 \*速水監督を偲ぶ、文集寄稿は、歴 史伝統の認識に浅い西南学院大学ラグビー関 係者には、素晴らしいカンフル剤になる事と 確信致します。

その当時、初春は新入生の件、夏は合宿練習、また正月は全国大会遠征と、昼夜を分かたずと言って良い程、一緒に行動の日々でしたが、ある日我が家の愛犬が品評会出場のため、練習を欠席しましたら、「犬一匹と学生とどっちが大事や!」と叱責されました......。

厳格で情熱家の河野博範先生(昭和 29~ 34 年頃。WHITE AND GREEN の作詞)が、 夏合宿に来られて、「この夏合宿に耐え切っ

# ●想い出の記

た者は、大学の全課程を修業した事と同じ値 打ちがあるバイ!」と言われた事を覚えてい ますが、監督は猛練習は元より、礼儀、躾に 特に厳しく指導され、この試練に耐えた現役 諸君(今は OB)だったからこそ、連続して 栄光の座を守り続けてくれたものと確信して います。これも一重に速水さんだがら出来た 偉業と痛感しております。

平成10年には、創部70周年という破天荒の節目を迎えますが、70年間の歳月に亙る歴史伝統の維持も、西南ラガーとして誇れるものですが、70年近くかけて、何を守り築き上げたかが問題ではないでしょうか。戦績もさることながら、速水監督の心が継承されてるでしょうか。

50周年記念に亡き諸先輩に思いを馳せ、 老いも若きも西南ラガーの矜持を誇り、肩を 組み床踏み鳴らしての部歌斉唱、西南ラグ ビーの栄光を誓い合って、早20年経過しそ の間に初代部長杉本勝次先生、熱血部長の河 野博範先生も今は亡く、幾多の諸先輩同輩 が、世を去られ遠のいて行く歴史を感じてお ります。

ラグビー界には敬老会はないとして、唯単に70年間継続した事だけを祝うのでしょうか。この記念すべき節目にこそ、各界から称賛されている、誇りある歴史伝統を、今一度噛み締めて改めて再自覚を促し、尚一層の西南ラグビーの発展育成を心すべきではないでしょうか。

#### 追記

軍服の臭いも未だ取れず、全く世の中が一 変の中に復員して2~3日後というのに、あ のラグビーの虫集団……配炭公団に入社させ ていただいたのも、速水さんのお陰です。ご 存知の方も多いと思いますが、満鉄鮮鉄の猛 者や福岡周辺の猛者揃い集団で、余程じゃな いと出場できませんでしたが、関東関西をな ぎ倒した強烈な思いがあります。その配炭公 団も社会的任務も終わり、解散退社し、やっ とラグビーから足が洗えたと思った矢先に 「おい! 八木ヨイ、グランドに来チャリヤ イ」と例の口調で言われ、亡くなられる迄 ……宿命というべきお付き合いが始まったの です。明るい内の練習は兎に角、練習後の夜 間教授、つまりお互い夜遊び好きで、3日と 空けず飲み歩いたものです。「八木ヨイ! チョッと行こうか」に始まり、ある程度酒が 入ると「八木ヨイ! どうするや、パッと行 こうか | になり酔いが回ると「八木ヨイ! 酔うたやね、ボツボツ帰ろうかしになる迄、 時にはグランドに顔を出してくれた面々も交 え、夜の中洲を例の口の悪い中にも独特の ギャグを飛ばし、速水講義を聞きながら、夜 の更けるのも構わず飲み歩いたのも昨日のよ うな気がします。

昼は仕事で、夕べはグランド、帰りや中洲 で宵(酔)知らず(博多節)

速水さんの生涯は、西南ラグビーに捧げられた一生であったといっても過言ではないで しょう。

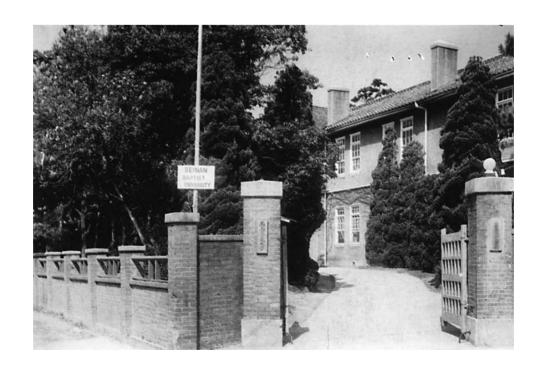
### 昭和24年卒・斉藤 守高

昭和17年9月には学生の繰上卒業があり、更には学徒出陣によって学生スポーツ全体が壊滅的打撃を受け、ラグビー界も同様遂に昭和22年1月に再開されるまで中止せざるを得なかった。

西南石田(陸軍特別操縦見習士官)、今林、 松村、太田(海軍飛行予備学生)は学徒出陣。 石田、太田は沖縄特攻爆死、松村はB29爆 撃機撃墜、鎌田、半田、森山、八木、多良、 加勢田、豊田、大塚は無事帰還。

明大専門部と互角以上の戦いを演じた西南 ラグビー史上最強のメンバーであった。

同時期、中等学校大会では、福中が慶応普通部を64-0の大差で破り、準決勝は崇徳中学を12-0、決勝戦では天王寺中学に6対0で優勝を逸した。この福中メンバーに永江、南川、斉藤、鶴丸、加藤がいて戦後陸海空から復員し、西南ラグビー再建に合流、初の全国優勝を遂げ、その後初三連覇に導いている。



# 第 44 期 (1943 年度)

# 44 期メンバー

■3年生 鎌本 勲·多良 勝

森山 一男・橋本 啓造

田中 正一・橋本 豊

高本 保孝・許山 秀哉

半田喜兵衛

■2年生 松田 百弘・大塚 泰彦

山崎 八郎

■1年生 藤 勇光·許山 岩門

古川 静・渡辺 博

赤間 伸三・松本 栄一

昭和17、18年を通じ、物質不足を反映し 新聞記事にも制限を加えられスコアーのみと なった。

#### ■昭和 18 年 5 月 2 日

全九州実業団、高専・大学、中等学校、七 人制大会が行われた。実業団では製鉄、大学・ 高専では西南学院、中等学校では福岡商業が それぞれ優勝した。

★準決勝戦 (大学・高専)

西南学院  $3\begin{pmatrix} 3-0\\0-3\end{pmatrix}$  3 福岡高商

\*西南は抽選勝ち

九 医  $3\begin{pmatrix}0-0\\3-0\end{pmatrix}$ 0 拓 専

#### ★決勝戦

西南学院 
$$48\begin{pmatrix} 25-0\\23-0 \end{pmatrix}$$
 0 九 医

西南が九医を一蹴して優勝したが、その後は戦争状況が緊迫し、一切の全国大会は取り 止めとなった。

#### ■昭和 19 年 1 月 23 日

第1回九州地方高校専門学校闘球(ラグビーは戦争中は闘球と名付けられていた)大会が、春日原グランドで挙行された。

★高校の部 決勝戦

五 高 
$$12\begin{pmatrix} 6-3\\6-3\end{pmatrix}$$
6 佐 高

★専門学校の部 準決勝戦

九 医 
$$38 \begin{pmatrix} 22-0 \\ 16-11 \end{pmatrix}$$
 11 長崎高商

西南学院 
$$25\left(\frac{17-0}{8-3}\right)$$
 3 福岡高商

#### ★同決勝戦

九 医 
$$34\begin{pmatrix} 8-0\\26-3 \end{pmatrix}$$
 3 西南学院

これが戦前最後の九州大会となった。

# 第 45 期 (1944 年度)

# 45 期メンバー

■3年生 松田 百弘・大塚 泰彦

山崎 八郎

■2年生 藤 勇光·許山 岩門

古川 静・渡辺 博

赤間 伸三・松本 栄一

■1年生 宗 健次・喜多村辰男

戦争激化 全国大会中止。

未公認試合だが、19年8月、明大と福中 学生連合軍が春日原で出陣最後の試合を行っ た。 西南・高商連合軍に満州組・関西組等が集合。

藤原(村工)、柴山(東筑)、大田垣(鞍山)、 清原(福中)、中島(鞍山)、山下(嘉穂)、 安武(福中)、斉藤(福中)、藤(福商)、加 藤(村工)、芝(崇徳)、松川(大連)、永江 寿(福中)等が参加。

その他の記録は一切ない。それよりも昭和19、20年かけて学徒出陣された西南学院の学生が皆大戦に一命を捧げられた時期である。この先輩方の犠牲の上に戦後の我等の歴史が導かれていることを自覚すべきと思う。



# 出征覚悟の日々 西南・高商連合軍対明大戦

昭和20年・松田 百弘

昭和18年嘉穂中学から西南学院に進学、 ラグビーを始めました。チームメイトには山 崎、渡辺、藤、赤間君などで、一級下に宗君 の福岡商業出身者が多くて、入部当時の主将 は半田先輩でした。

その頃は戦時下で、外国語は世の中から国策で抹梢され、ラグビーは〝闘球〟と命名された時代で、第25回全国中等学校ラグビー大会も、昭和18年正月大会(昭和17年度)で終わり、福岡中学が決勝戦で天王寺中学に6対0で負け、私の記憶は定かではありませんが、西南も昭和18年正月大会(昭和17年度)第18回全国高専大会決勝で、明大専門部に惜しくも17対11で優勝を逸しています。

その後、試合といえば高商(今の福岡大学) との対戦くらいで、久羽(福中~高商~明大) 野見山(嘉穂~明大)永田君(門鉄)などの 顔が思い出されます。また理科系の九州医専 (今の久留米医大)は、徴兵猶予の適用を受 け、闘球、も強く、文系の学生は猶予なく兵 役に入れられ、チームは弱体の限りで、西南・ 高商の連合で戦ったものです。

昭和19年8月頃、明大の未だ兵役徴兵残留組が、安武氏(福中~明大)の音頭で春日原に集り \*西南・高商連合軍、と思い残すこ

となく最後のラグビーを戦い、確かに我々が 勝ったようです。残念ながら身近な八木、加 勢田先輩方など優れた方々の、直接の教えを 受けられらなかったことですが、練習は専ら 春日原で、速水監督さんが忙しい時間を割か れて指導されました。

戦後21年、嘉穂中に部が復活と同時にOBクラブが誕生し、大谷二男(明大OB)の下、小生も西南での経験を生かし、他のOB諸氏共々、速水監督流で現役の指導に当りました。

それらの後輩の中から、明大に進学した横山、佐野、加地君など、また就中昭和26年全国高等学校大会に出場ベスト4迄に進出(秋田工業に敗戦)した諸君が生れました。

当時 FW 第一列、即ち山本(西南大)伊東正純(明大クロスメディア社長)松尾正勝 (八幡製鉄) は日本一だと、故北島忠治さん に褒められた人材でした。

私のラグビー人生に於いて、西南ラグビー 速水監督の指導を仰いだ喜怒哀楽が、そのま まに私の生き様、信念になったといっても過 言ではありません。

最後に、西南現役諸君に! 礼儀正しくあれ!

そして旺盛な闘争心を持って頑張ってくだ さい。

西南大ラグビー部を、数多くの OB 諸氏が 君達の健闘を見守っている事を忘れないよう に!

# 第 46 期 (1944 年度)

## 46 期メンバー

■3年生 藤 勇光・許山 岩門

古川 静・渡辺 博

赤間 伸三・松本 栄一

2年生 宗 健次・喜多村辰男

■1年生 新免 昭彦·中島 節雄

上村 博明・井上 正之

因幡 敏和

終戦の混乱で全国大会なし。

20年6月19日、空襲により、福岡は大被 害を被った。上海、支那事変の拡大で遂に世 界の列強相手に大東亜戦争を争い、8月15 日の無条件降伏に至り、有史以来の大混乱に おちいった。

#### ■昭和 20 年 9 月 11 日

新日本の国力たる国民体位の向上は、新日本建設に一路邁進する為に最も重大で深刻な問題であるが、「財団法人日本体育会」では、その基本方針について逸早く検討が進捗し始めた。選手主義の弊一掃、科学的能率的体育行政へ 後の国民体育大会への 第一歩であろうかー。

#### ■昭和 20 年 11 月

戦後のラグビー再開はこの試合と次の修猷 対福中戦をもって始まった。

#### ■昭和 20 年 11 月 3 日

明治の佳節に新発足した九州ラグビー協会の初試合たる(OB軍対西南学院戦・OB軍対九医)が九大工学部グラウンドで挙行された。澄みきった青空のもと、復員将兵多数が

交わり、終始熱戦を展開、ことに OB 村上令 (明大出身) は昭和 18 年 11 月、ブーゲンビル島沖航空戦でグラマン P 6 F と交戦、右腕 切断の身体ながら義手をつけ奮闘した。

\*九州協会が西部ラグビー協会九州支部から正式に独立したのは、昭和22年9月からであるが、この記事では、明治の佳節に新発足した九州ラグビーの初試合とある。気の早い九州人の一面が出ている。

OB 22 
$$\binom{13-0}{9-13}$$
 13 西南学院



(R・広田)

九 医 
$$39\begin{pmatrix}28-0\\11-9\end{pmatrix}$$
 9 OB



(R·山本)

# ●想い出の記

今年 11 月戦後における初試合が福中 OB の申入れによって、九大工学部グラウンドにおいて、福中と対戦している。修猷が 23 - 0 と完勝した。これを出発点として修猷ー福中のライバル関係は再度永遠に続いて行く事であるう。

嬉しい事に修猷にしても、福中にしても、 部の復活は共にラグビーがトップを切ってい ることである。

(「修猷館ラグビー 70 年史」より)

## ●想い出の記

# 故速水監督さんへの感謝の念

昭和19年・許山 岩門

故速水監督さんの思い出といえば、一番に 〝唯々感謝〟の一言に尽きます。

終戦の年の昭和20年、復員して1年間西南の研究科に来ないと卒業証書を渡さないと学校から通知を受け、戦争に負け終戦を迎え、大日本帝国の将来も分からず、卒業証書が何になるか! と自暴自棄、混乱の日々を送っていました……

ところが、人づてに \*速水さんがお前ば探 しよござる。 との話で、博多駅に尋ねまし た。「許山よい! 西南ラグビー部ば再建す るけん、お前も来やい!」の一言で研究科行きを決心し喜んで西南ラグビー部再建に参加させていただき、そのお陰で〝卒業証書〟を手にする事が出来ました(その後、京都の同志社大学に進学、商学士を修得出来ました)。

ところで、戦後の速水監督は、あの軍国時代の鬼神も避ける厳しさも薄れ、相変らずの国鉄の制服のままで、雨風を厭わずグランドに来られ、特にFW戦に勝つ指導をされました(戦後の労働運動が盛んになり、毎日の職場早引け?で首を心配したものですが……)。当時の仲間の大半は、福商、福中、修猷等のラグビー経験者が、陸海空から復員した猛者揃いで、理科系の九州医専が兵役猶予の特典で、優位を保っていた時代です。

速水監督は6月の熊本大会に照準を決め、 九医作戦を研究。種々検討の結果、オープン 戦を得意とする九医に対して、西南も堂々と オープン戦を挑むことと決定。時に依りFW 7人制とフライングハーフの設置をも指示さ れましたが、全国大会でも大成功でした。

忘れもしません! まさかの全国大会優勝 直後、花園グランド前には戦争の遺物 、防空 用水池、があり、初優勝の感激で、氷が張っ たそれに飛び込み、体を洗った事を忘れませ んが、戦中の速水さんを熟知していた私は、 監督のあれ程の 、喜び方、は知りません!

# 第 47 期 (1946 年度)

## 47 期メンバー

■3年生 宗 健次·喜多村辰男

■2年生 新免 昭彦・中島 節雄

上村 博明・井上 正之

因幡 敏和

■1年生 斉藤 守高·加藤 仁

伊藤 茂信(旧姓 小井手)

鶴丸 民夫・永江 寿

真次 勲・真鍋 明彦

田中 豊・中牟田義彦

吉原富士雄・中尾 正彦

三宅 伴明(旧姓山田)

奈須 芳人・伊藤 康彦

南川 昌一・本城 瑞穂

#### ■昭和 21 年 9 月 8 日

(戸畑鞘ケ谷競技場/R・速水)

八幡製鉄  $12\begin{pmatrix} 6-8\\6-3\end{pmatrix}$  11 西南学院

両軍技倆伯仲、結局製鉄辛勝す。

#### ■昭和 21 年 11 月 12 日

高専大会県予選

西南学院  $15\begin{pmatrix} 6-0\\ 9-0 \end{pmatrix}$  0 久留米医大 **★**第1回戦

福岡経専  $31\begin{pmatrix} 9-0\\22-0 \end{pmatrix}$  0 大九工専

福岡農専  $31\begin{pmatrix} 12-0\\19-0 \end{pmatrix}$  0 九工医専

\*井上負傷

### ■昭和 21 年 11 月 19 日

西南学院  $18\left( {12-0\atop 6-0} \right)$  0 福岡経専専門学校準決勝戦

#### ■昭和 21 年 11 月 25 日

決勝戦 (高専)

西南学院  $46\begin{pmatrix} 14-0\\ 32-0 \end{pmatrix}$  0 福岡農専

#### ■昭和 21 年 12 月 8 日

全国高専ラグビー九州予選決勝戦

(九大工学部G)

西南学院  $34\begin{pmatrix}12-0\\22-0\end{pmatrix}0$  宮崎農専

#### ■昭和 21 年 12 月 25 日

満州で病死した元九大ラグビー部長満田 隆一博士追悼のラグビー試合が九大工学部 グラウンドで挙行(主審山元)された。

第1試合 全福岡対全北九州は予想通り技量伯仲接戦を演じたが、全福岡はルーズに巧みで、又バックすのパスワークも良く、北九州も後半漸く1トライ1PGを得た。往年の名選手が顔を並べて、戦後初めてのラグビー戦が演じられた。

第2試合、西南対西鉄は9-8で西南が辛 勝した。

# ★第1試合

全福岡  $20\begin{pmatrix} 6-0\\14-6\end{pmatrix}$  6 全北九州

\*バックス1名欠けているが不明

#### ★第2試合

西南学院  $9\begin{pmatrix} 3-5\\6-3\end{pmatrix}$ 8 西 鉄

#### ■昭和22年1月3、5、7日

第19回大会全国高専大会

(花園ラグビー場/R・斧原)

戦後最も早く立ち上がったのはラグビー界ではなかったろうか。終戦の翌月である9月に関西ラグビークラブと三高の試合が行われ、それ以後各地で復活された。

高専大会も翌21年の秋から諸資材の不足、食料難その他の困難を克服して主催、日本ラグビー蹴球協会、主管西部ラグビー蹴球協会、毎日新聞社の後援の下に、北海道、東北、関東、東海京都、大阪紀和、兵庫中国、四国、九州の8地区で予選が行われた。明けて22年1月花園ラグビー場で全国大会が行われた。

この大会からは高等学校が帝大ラグビー連 盟の主催するところとなり、高専大会から離 れ、又大学予科も主催社は同一であるが別枠 で行われることとなった。

★昭和22年1月3日(全国大会1回戦)

(R・斧原)

#### ★昭和22年1月5日(2回戦)

(R・伊藤)

西南、反則勝ち。大会規定により同点の場合は反則数の少い方を勝にすることになって おり、西南学院の勝となる。

泥濘と冷雨に技を全く封じられた両軍は、 体力勝負となったが、西南のバックスはそれでも絶えずパスと走力で攻撃を続けたが、決定に至らず、わずかに前半ドリブルで雪崩こみの1トライをあげた。後半もドリブルの応酬だったが、西南の自信は常に松山を圧しながら得点に至らず、遂に松山のドリブルに1トライを報われ、3-3の同スコアとなり、 反則数松山に多く、西南が優勝戦に進む。

(「47 宗健次資料」より)

#### ■昭和 22 年 1 月 8 日 (決勝戦)

「西南の制覇なる」高専ラグビー

日本ラグビー蹴球協会主催、第26回全国 高専ラグビー大会最終日、立命館専門(東海 京都代表)対西南学院(九州代表)の優勝戦 は8日午後1時から近畿日鉄花園グランドで 杉本氏主審、立命館専門先蹴で開始、戦前 の予想をくつがえして18-3で西南が優勝 し、福岡中学とともに九州ラグビー界の金字 塔を築いた。

西南学院 
$$18$$
  $\begin{pmatrix} 5-3 \\ 13-0 \end{pmatrix}$   $3$  立命專門  $3$  这命專門  $3$  这一个  $3$  这一个  $3$  这一个  $3$  这一个  $3$  这一个  $4$  是  $4$ 

経過:優勝候補と目されていた立命館は、 連日の熱闘に疲れをみせて、頼みのFW振わず、西南、前半7分にして立命ゴール前のタイトの球を、本城抜き斉藤にパスポスト直下にトライゴールして幸先よいスタートを切れば、立命また24分ペナルティゴールを得て応酬、前半は5-3の接戦に終った。後半4分ルーズの球を本城巧みに抜いて加藤、斉藤 にわたり中央トライ、矢継ぎ早やに八分更に 左中間トライゴールして 13 - 3 と引き離し て勝敗を決し、42 分のルーズの球を永江拾っ て加藤、宗とパス、宗 25 ヤード独走して中 央にトライ、18 - 3 で西南が優勝した。西 南の危ぶまれたセブンFWが、立命のエイト を押し、バックスを生かしたのが勝目であっ た。

これに反して立命はタイトでは相当の球を とったが、スクラムハーフスタンドオフで持 ち過ぎ、密集に突っ込んだため、パスの展開 をみず個々の強引さが災いして敗北した。

(「47 宗健次・49 加藤仁資料」より)

#### ■昭和 22 年 2 月 2 日

(九大工学部G)

全国ラグビー大会で優勝した福岡中学と 西南学院の現役 OB の優勝祝賀ラグビー試合 は、2日九大グラウンドで挙行、2試合共現 役チームが練習不足の OB チームを制した。

西南現役 19 
$$\begin{pmatrix} 11-8\\8-6 \end{pmatrix}$$
 14 西南OB 福中現役 26  $\begin{pmatrix} 13-3\\13-6 \end{pmatrix}$  9 福中OB

## 昭和22卒·井上 正之

私も "尽忠報国、天皇陛下の為、航空隊志願。三重海軍航空隊奈良分遣隊甲飛第13期生で、終戦は水上特攻訓練基地、大分国東半島住吉浜 "回天基地、で知り、先に出撃をした戦友を偲び僚友と出撃を企てたものの、上官に察せられ計画頓挫。我々若桜は早々と8月25日帰還命令を受けた。

#### (強烈な思い出)

何といっても全国大会初優勝と無礼講の二 日市での祝勝会である。お世話戴いた方には 大変ご迷惑をおかけしたと思うが何といって も青春の爆発だった。

#### (楽しい思い出)

昭和22年古川先輩の母校、小城中学にラグビーの指導に4~5名が行き、夕食に牛肉の牛乳焚き(胃もたれを防ぐためノンシュガー)を、腹一杯ご馳走になり、又、火入れ前の新酒の痛飲、先輩を中心に夜遅くまで談笑した事は今でも忘れられない(先輩の家業が醸造業だった)。

#### (苦しい思い出)

昭和21年11月全国高専大会県予選。九医戦でラック中に私の大腿部に九医選手が突込み、小生の大腿骨にひびが入った。走れる状態ではなくなったが、当時は選手交代規則もなく最後まで頑張って勝った事。又、全国大会迄はなんとか良くなり出場出来た。

## 昭和24年卒・三宅(旧姓山田) 伴明

西南入学と同時に男のスポーツラグビーに 魅せられ入部した。、西南ラグビー、は聞き しに勝る激しさ。軍隊でシゴカレた復員組の 威勢の好さは今も忘れない。津屋崎から湾鉄 西鉄市電で通学。放課後は西新から九大工学 部終点下車。工学部グラウンドで猛練習の終 了後は同じ沿線の許山氏、因幡兄、志賀島か らの小林シカチャンとクタクタで会話もなく 帰宅したものだ。遠距離通学で登校してもラ グビー仲間の姿はなく、会えば代返の依頼バ カリで、それを何とかコナシて九大グラウン ドに行けば、ここで初めてラグビー仲間の顔 が揃っている有様だった。

中国語の倉光先生は講義前に「ラグビー部 のメンバーは、毎日大変ですね」と見透かさ れる事もあった。

雑炊芋腹の胸焼けに水飲むな!その上に、 スクラムの猛訓練という苦しい思い出もあっ たが、何といっても全国大会遠征初優勝と二 日市の祝勝会、これは生涯の思い出となった。

学外では、ダンスの全盛時代。皆土曜日は オールナイトでジルバを踊ったものだ。湾鉄 終電車に乗り遅れたら斉藤さん方に宿泊と いった案配。翌日の門鉄戦3-6の接戦。監 督はご機嫌だった。

全国大会に出場。花園では控えだったが、 連続優勝も我々のお蔭と監督の話を聞いて嬉 しくて伝チャンも配慮の人と尚更尊敬の念を 持った。西南が名古屋に来れば〝差し入れ〟 を専らしたが近頃は地区大会に低迷と聞き、 何とか往年の西南ラグビー復活とならないか と期待している。

# 第 48 期 (1947 年度)



昭和22年11月、対明専後、やっと出来たユニフォームを着て 全ての写真の中でこれ程気持ちよく揃った笑顔はない

## 48 期メンバー

■3年生 新免 昭彦·中島 節雄

上村 博明・井上 正之

因幡 敏和

■ 2 年生 斉藤 守高·加藤 仁

伊藤 茂信(旧姓 小井手)

鶴丸 民夫・永江 寿

真次 勲・真鍋 明彦

田中 豊・中牟田義彦

吉原富士雄・中尾 正彦

三宅 伴明(旧姓山田)

奈須 芳人・伊藤 康彦

南川 昌一・本城 瑞穂

■1年生 西村 強三·日下部信行

小林 恒美・桜井 一正

猿渡 啓一・内藤 正道

大塚 正道・三宅 秀夫

三隅 哲夫

# 「福岡県ラグビー展望」

(「福日新聞」昭和22年9月1日朝刊より)

「秋の訪れ」と共にスポーツのシーズンとなった、昨年高専・中等ともに全国制覇を獲得。今や九州、特に福岡県のラグビーは全国的水準に冠たるものがあるが、果して、今シーズンはどうか? 福岡県下ラグビー界の展望をシーズン冒頭に贈ろう。

『西南』昨年度は堂々の全国制覇を遂げ「九州に西南あり」を知らせた西南チームは、去秋のメンバーから許山・喜多村・宗と病気療養の南川を欠ぎ、FW新免主将中心に本城・斉藤・加藤・鶴丸らが健在だが、FWが小粒でウエイトが無い為やや弱体だが、8月対福岡倶戦に1ゴールを許したまま、20点の大

差をつけた戦績を見せており、本シーズンの 優勝は確実で、本年度も全国制覇を目標に、 速水監督を中心に着々態勢を整えている。

(「49 加藤仁 | 資料より)

#### ■昭 22 年 9 月 28 日 (鞘ケ谷G)

西南学院  $17 \begin{pmatrix} 11-0 \\ 6-0 \end{pmatrix}$  0 八幡製鉄

#### ■昭和 22 年 11 月 30 日

全国専門中等ラ式予選 北九州決勝

○北九州予選(春日原G)

西南学院 88  $\binom{44-0}{44-3}$  3 長崎経専

○南北九予選 (於宮崎)

熊本語専  $14\begin{pmatrix} 8-3\\6-6\end{pmatrix}$  9 宮崎農専

#### ■昭和 22 年 12 月 7 日

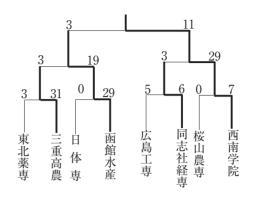
○九州地区決勝戦

西南学院  $48 \begin{pmatrix} 26-0 \\ 22-3 \end{pmatrix}$  3 熊本語専

#### ■昭和23年1月3、5、7日

第20回全国高専大会(花園G)

依然として食料難、資材難が打ち続く中に、戦地よりの帰還者により人的資源は逐次充足して来た。戦前より行われていた全国中等学校大会も復活し、各学校チームも続々と名乗りをあげ、それにも増して活躍したのは関西ラグビークラブを始めとする OB 連中であった。これらの人々の献身的な活躍により高専大学も充実したものとなって来た。この様な環境の中で第 20 回大会が行われた。



#### ■昭和 23 年 1 月 3 日

★第1試合(主審・木村)

【概評】 0 時 10 分西南の先蹴で開始、体躯に恵まれた松山の FW はセブンの西南のタイトによく対抗し、バックスのハンドリングもよく、稀に見るスピーディな試合を展開した。西南は前半 PG で僅かにリードしたが、西南バックスの決定力は漸次松山を圧して攻勢を続け、特に SO 斉藤の強引な突込みはしばしば松山のラインを突破し、新免、西村のバックローに続く FW のバックアップは全く見事で、よく球を生かして得点を重ねて快勝した。西南の勝因は結局この全員のたゆまざるフォローアップにあるといってよかろう。

#### ■昭和23年1月5日

#### ○準優勝戦 (R・宮原)

西南学院  $29\begin{pmatrix} 23-0\\ 6-3 \end{pmatrix}$  3 同志社経専

概評:1時同志社の先蹴で開始、同志社FWは鋭い突込みを見せて西南FWを圧し、西南ゴール前に進んだTBの決定力に欠けて得点に至らなかった。しかし西南はセブンのスクラムサイドの鉄壁のディフェンスから同志社のHBのミスに乗じて6分加藤がトライをあげてから好調となり、4ゴールをあげて前半23-0とリード。後半FWの劣勢な西南はスクラムを8人で組んで戦ったが、同志社FWに圧迫されて再びセブンにして永江の活躍に期待したが、前半の調子は出なかった。同志社はFWが6割の球を得ながら、SOとCTBのキックの濫用がこの日の敗因であった。

(北野)

#### ■昭和 23 年 1 月 7 日

#### ○優勝戦 (R・杉本)

西南学院  $11\begin{pmatrix} 3-9\\ 8-0 \end{pmatrix}$  9 函館水産

概評: 2時西南の先蹴で開始、力の函館と 技の西南は全くの伯仲、キックオフから息づ まるような接戦を続けたが、ウエイトに勝る 函館はタイトに断然西南を圧し、大部分の球 を取って攻勢を続け、これに対して西南は ルーズの集り早くよく球を取って対抗した が、13分FWドリブルで西南の左隅に迫っ た函館は遂にタイトの優勢を利してスクラム トライをあげ、西南もついで SO 斉藤の突進 から函館を右隅に圧し、更に斉藤、鶴丸と右 ヘパスを廻して鶴丸トライして同点となる。 しかし函館FWの優勢は24分またも西南の 右隅のタイトを押し切ってトライ、ハーフタ イム前にもまたまたスクラムトライを加え て、9-3とリードした。後半に入って、西 南加藤の突進とPKで函館ゴールに殺到し、 ここで函館不覚にもピックアップの反則を犯 し、永江のPG見事に入って9-6と迫る。 之に勢いを得た西南は24分斉藤のパントを

### ●戦績

函館小田ミスするに乗じて自らこれを拾って 右から中央に廻ってトライ、永江これをゴー ルして遂に試合を逆転した。両軍の力量には 全く差は認められないがFWは集散に一歩を 先んずる西南がバックスの快走力に優る点が 勝敗の分岐点となったものといえよう。

(「毎日新聞」S 23. 1. 7より)

#### ■昭和 23 年 1 月 18 日

西南祝勝ラグビー

福岡県  $16\begin{pmatrix} 8-0\\8-3\end{pmatrix}$  3 西南学院

# 想い出の記

昭和23年卒・斉藤 守隆

福中一明大一福岡聠隊一関東軍一台 湾軍一復員一西南一慶大。

戦時下、文系学生の兵役猶予撤廃で、 満州の方で徴兵検査。福岡の聠隊に入 営一関東軍より台湾軍に移動。台湾に て終戦を迎え翌年復員。復員後、東京 生活は混乱。明大グラウンドは農地と 化し1年間の休学手続をとり福岡へ還 る。速水監督の呼びかけで西南ラグビー 復活に呼応した。

関東軍では零下 25 度の極寒に耐え、 その後、満州を縦断、台湾へ移動。台 南師団の司令部で終戦。終戦後は邦人 保護憲兵隊主計で残留。翌年 2 月鹿児 島に上陸復員。

強烈で楽しい青春の思い出は、初優 勝直後の感動と速水監督を男にした喜 び一併せて二日市の祝勝会と三度の遠 征合宿である。 苦しい思い出とは、空腹一芋腹、猛 練習と給水厳禁であった。

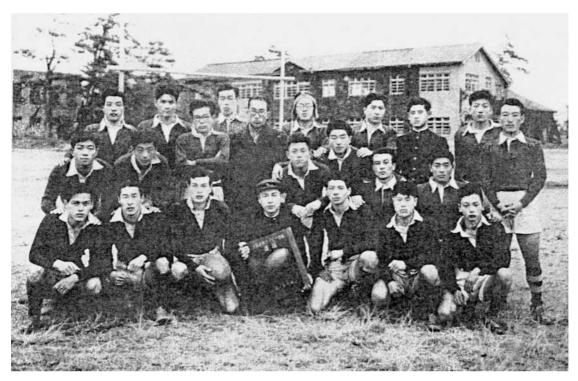
偉大な速水監督とは戦中戦後、入手 困難の国鉄切符が取り持つ縁で明大の 休学手続きを終え帰福時に挨拶に寄っ たところ「博多で暴れるなら、西南に 来い!」の一言が機縁である。

予て見聞していた西南の猛烈なシゴキのため西南ラグビーへの入門は、加勢田先輩の勧誘を避け相当逡巡していたが、福中OB南川、永江、鶴丸、加藤他、福高、修猷OBの復員の猛者が合流と聞き参加する事となった。

ところが監督の戦後は体罰もなく要 所要所を厳格に指示を受けた様に思 う。我々も軍隊でしっかり鍛われてい た点もあり、速水流の強いリーダーシッ プで西南のラグビーが出来上がった。

平成10年12月6日、遅ればせながら37回忌を有志が企画して、仇敵福岡高商OB中村孝氏や43期加勢田先輩で囲み、御遺族の思い出話をお聞きし、故人を一層偲んだ。

# 第49期 (1948年度)



昭和24年正月、全国大会三連覇達成(秩父宮ラグビー場にて)

### 49 期メンバー

■3年生 斉藤 守高・加藤 仁

伊藤 茂信 (旧姓 小井手)

鶴丸 民夫・永江 寿

真次 勲・真鍋 明彦

田中 豊・中牟田義彦

吉原富士雄・中尾 正彦

三宅 伴明(旧姓山田)

奈須 芳人・伊藤 康彦

南川 昌一・本城 瑞穂

■ 2 年生 西村 強三・日下部信行

小林 恒美・桜井 一正

猿渡 啓一・内藤 正道

大塚 正道・三宅 秀夫

■1年生 宮下 正義・坂本 譲

宗 博之・高橋 逸郎

満田 譲二・横野 信義

吉田 喜剛・本城 瑞穂

松下 博之・三隅 哲夫

#### ■昭和 23 年 11 月 12 日

門 鉄 5-3 西南学院



合宿明けの第一線は、毎年門鉄戦であった。本年の門鉄戦に、西南学院惜敗す。

#### ■昭和 23 年 11 月 12 日

第3回国体が福岡で行われるが、平和台ラグビー場の建設工事は県ラグビー協会の直営工事で、現在まで90%しか完成していないため、福岡市在住のラガー200名がユニフォームを着て作業奉仕を行い、国体迄に間に合わせる予定である。

(「西日本新聞」より)

#### ■昭和 23 年 11 月 21 日

全国ラグビー福岡県予選

★高専準決勝戦

西南学院 76 
$$\begin{pmatrix} 34-0 \\ 42-0 \end{pmatrix}$$
 0 福岡外專 福岡経専 14  $\begin{pmatrix} 3-8 \\ 11-3 \end{pmatrix}$  11 九 医

#### ■昭和 23 年 11 月 23 日

★高専決勝戦 (福岡県)

西南学院 
$$42\begin{pmatrix} 9-0\\ 33-0 \end{pmatrix}$$
 0 福岡経専

#### ■昭和 23 年 11 月 27 日、28 日

★全国ラグビー高専九州代表決定戦準決勝 全国高専 九州代表決定戦 (平和台G)

西南学院 84 
$$\binom{47-0}{37-0}$$
 0 長崎経専

#### ★高専決勝

2年連続全国制覇の西南学院が、宮崎農専 (大分宮崎代表)をワンサイドゲームで敗 り、全国大会出場権を獲得した。三連覇を目 指す西南は、昨年と同メンバーで他チームの 追随を許さぬ充実振りである。

三連覇を目指す西南学院は、この年、宮崎にて合宿。宮崎在住の郡司先輩と上田先輩の

御世話で大淀川を見下ろす天理教宮崎分教会で実施。信者さんの「ひのきしん」で大変なお世話を戴いた。食事のおかずが「かぼちゃ」が多く、胸やけの多発、練習中の水飲み厳禁、本城の盲腸炎、戸板運搬。

エイトのスクラム、朝30本、午後50本、 安永先輩のシゴキ等数えきれぬ苦しい思い出 がある。それにしても、西南経専・高校併せ て60名以上の10日間にわたる合宿、天理教 宮崎分教会殿にどれだけ御迷惑をおかけした かと思うと、両先輩の御力添えと共に今更に 感謝にたえない。

この合宿の試練が全国大会で、函館水産に 打ち勝ち三連覇の原動力となった事は当然で ある。

西南学院 
$$70\begin{pmatrix} 35-0\\ 35-0 \end{pmatrix}$$
 0 宮崎農専



#### ■昭和24年1月2、4、6日

第21回全国高専大会が開催された。

(東京秩父宮ラグビー場)

尚、高等専門学校が昭和24年4月から新制大学に昇格することとなったので、この大会が高専大会としては最後の大会となるのである。

#### ■昭和24年1月2日

#### **★**1回戦

西南学院 
$$13\begin{pmatrix} 0-11\\13-0 \end{pmatrix}$$
  $11$  三重農専

大会に出場した。予想通りFWに強い三重の 直進に前半西南は受身の形でオープンに試合 を展開せんとしたが、三重は好調のドリブル で3分ゴールをあげ、ペナルティに恵まれ、 前半11対0とリードした。後半西南は球を フルスピードでバックスに廻すべく戦法を変 更、バックロー西村、高橋、本城よくこれに 応えた。後半9分西南ペナルティゴールで3 点を返し、更に22分スタンドオフから斉藤 の好技にスクラムサイドを抜いてゴール。続 く 26 分相手バックスのタッチキックをバッ クロー西村がラインぎりぎりで好捕、そのま ま猛ダッシュでゴールポスト直下にトライ、 遂に決勝ゴールを上げた。正にドラマチック な逆転劇であった。

#### ■昭和 24 年 1 月 4 日

#### ★準決勝戦

西南学院  $30\begin{pmatrix} 21-0\\ 9-0 \end{pmatrix}$  0 早稲田専門部

概評:三重農専は絶対優勝の自信をもって 概評:この試合では徹底的に早大FWを圧 倒する作戦であった。作戦通り、試合開始と 共に、西南フロントロー真鍋、小林、吉原は 突っ込みに出た。タイト・スクラムで腰を低 く、レイトの早大を押し又ホイールして活 躍、FWロック真次、猿渡はシャープな突っ 込みと共に見事なドリブルで早大FWを割っ た。かくてオープンに球が回れば西南駿足 バックス陣の望むところで、前半開始直後、 僅か1分でアッという間にワントライを挙 げ、雪崩のような攻勢で6トライ・1ペナル ティゴールと矢継ぎ早に前半21対0と決定 的なリードを奪った。

> 早大専門は全国一流選手を擁しているもの の、橋本、湯川、佐藤の欠場で陣容立て直し ができず、後半も焦燥の試合を続け西南を押 すには押したが、好デフェンスに封ぜられ、 バックスは手も足も出ず、20分後は再度鶴 丸、加藤の快足に蹂躪され、3トライを挙げ られ敗退した。得点30対0この試合で西南

が7つの反則を出しているのは、勢い余ったとはいえ珍しいことでもあった。

#### ■昭和 24 年 1 月 6 日

西南輝く三連勝。

西南学院 
$$8\begin{pmatrix} 8-0\\0-0\end{pmatrix}$$
 0 函館水産



決勝に登場するのは西南にとっては3度目であり、函館水産にとっては昨年度の復讐戦であった。雪解けのためグランドコンディション最悪、西南得意のオープン戦を阻まれがちであったが、これは最後の高専大会らしい白熱戦を展開。試合中打撲脳震盪で人事不省に陥る者4名が続出する程であった。両軍FWはタイトにルーズに泥まみれになって火花を散らしたが、西南はタイトで姿勢が低く、ルーズの突き込みで、パスが良く出てバックスの攻撃力に大きな力を与えた。

函館水産の強硬なデフェンスが西南のバックスを如何に封じ込めるかが優勝のキイ・ポイントであったが、西南FWの大活躍は函水のデフェンス・ラインを寸断、スタンドオフ本城に縦横の活躍を許した。函水はTB橋本弟を本城に対すべくスタンドオフにあげた

が、いかにせん函水のFWが西南に割られ、 後退また後退のルーズであって見れば、デ フェンス・オンリーも効果を失い、前半15 分函水陣25ヤード前のルーズから出た球を 西南本城うまくひっかけ、左を突いて小井手 に渡し、ゴールを一気に回り込み、ポスト直 下にトライ、続いて函水はドリブル戦法に出 て、ロング・ドリブルで押しまくったが、西 南は自陣20ヤード・ラインで食い止め、ルー ズからこぼれた球を右ウイング鶴丸がフルス ピードで拾いあげ、逆コースをついて鮮やか に60ヤード独走、函水橋本、小林のタック ルを猛烈なハンドオフデ抑え、よくフォロー したバックロー西村に渡して中央にトライを 挙げゴール。鶴丸の駿足と西村の好フォロー は大会随一の見事なプレーだった。

後半は両軍死力をかけた戦いとなり、物凄 いエキサイトのうちにゲームが進められた が、函水の焦りに反し、西南斉藤主将がよく チームをまとめ、球はほとんど西南のものと なった。ただ函水のがむしゃらタックルには ばまれたが、函水にしてみればトライゲッ ターを持たぬ悲しさから、再三チャンスを逸 し接戦のうち8対0でホイッスルとなる。

西南はバックスの走力と予想以上のFWの活躍があり、技術も洗練されていたため、名実共に日本一の栄誉をかち得た。この前人未踏の3連勝は20余年西南ラグビー監督として、また福岡地方ラグビー界の先覚者として献身的に指導に当たっている速水伝吉氏の功績であり、ラグビー発展の為この上なく称えられ然るべきであろう。

(「福日新聞」高松より)

[特記] 西南の誇るフライイングハーフの 永江選手は、この年24年度の全国大会に出 場する最後の練習マッチで膝頭を負傷。歩行 困難の症状で全国大会に参加はしたが、ベン チで応変。大変残念であったろうと思う。

それにしても、あの絵に描いたような足首 への一発タックルは未だに忘れられない。

(昭和26年卒・坂本)

# 

#### 昭和24年卒・中全田 義彦

中学生勤労動員で中央兵器に勤務中陸士合格。小田急沿線相武台の陸士に入学。埼玉県越生(おごせ)で厳しい訓練中終戦を聞き、上官の訓話も真面目に聞けない程の敗戦ショックであった。感慨無量で8月30日復員、翌年西南入学。

(最大の思い出) 初全国制覇の感動と二日 市での祝勝会。

(楽しい思い出) 奈良・東京と2校の全国 大会遠征と、ラグビーを除く宮崎合宿。

(苦しい思い出) 先輩から青竹で追われた。 ダッシュはきつかったが、速水監督に「お前達の練習の量と質は全国一だから負ける筈はない」と言われ、苦しさ以上に嬉しかった。

戦後混乱期の全国大会遠征は交通事情最 悪。西南は国鉄勤務の速水監督のお蔭で切符 の確保には安心出来た。私は23年大会の毎 日新聞社大阪支社のマネージャー会議に出 席。抽選で西南と当った相手チームのマネー ジャーは負けを意識してか、会議を中退し帰 路の切符の確保のため大阪駅に走ったほど \*西南学院 を意識していたのだ。

## 

#### 昭和26年卒・本城 瑞穂

修猷入学と同時にラグビーに魅せられ楕円 球を追うも数年後に日米戦争に突入。

当時の若者は競って甲種飛行予科練習生を 志願。立教ラガー牧(修猷 OB)、岸川、木村(福 高 OB)等が霞ヶ浦で種を撒いたラグビーが 体育科目となり座学より最高に楽しい学科 だった。厳しい飛行訓練を経て実戦配備。戦 況悪化と出撃待機の中で終戦を迎えたが、国 破れて山河あり、生きて故郷に帰れば〝ラグ ビー、があった。陸海空の復員で修猷、福 中、福商ラガーが出身者速水監督を囲み全国 初の三連覇を達成した。

最高の思い出となったのは、全国初制覇と 二日市温泉での祝勝会であり、練習の苦しみ も全国大会花園2回と東京遠征での三連覇で 吹き飛んだ。

生涯忘れられない苦しみは、宮崎の夏合宿 中、盲腸炎で戸板運送中の苦しみと溝口外科 の手術。

ラグビーほど苦楽を共有する素晴らしいスポーツは無く、速水さんの人間像に感動!!

#### 

### 昭和23年卒·加藤 仁

西南学院専門学校ラグビー部を育成し全国 大会三連覇の偉業を遂げられた速水監督の偉

# ●想い出の記

業を、私達選手は何よりも称えたいし、よく ぞ戦後の混乱、食料不足(現在の学生は理解 出来ない事)に耐えラグビー部の執念、全国 制覇を果たしたが、回顧すれば一重に、速水 監督のお蔭と感謝感激を新にと西南ラグビー の起死回生を祈願しています。

(強烈な思い出)接戦を制した私の劇的トライをメンバーと共に誇りに思います。

(苦しい思い出) 喰い物不足

(楽しい思い出) 試合後の伝チャンの笑顔 と二日市優勝祝賀会

旧制福中2年生の時、ラグビー部に入り4年生の時、甲子園全国大会の優勝戦で天王寺に敗れたが、軍隊にシゴカれ復員して伝チャンに持ち上げられ西南全国制覇を果たす。慶大に転じては早明と戦い、英国オ(オックススフォード)大、ケ(ケンブリッジ)大試合で出来上がり「我がラグビー人生に悔いなし」の晩年です。

#### 

## 昭和24年卒・斉藤 守高

先日2月12日は地区老人会の「太宰府参拝」バス旅行に参加(私は道を覚えるため、極力バス旅行だけは参加することに心掛けていますが、85%は老婆集団で、色気皆無)。 家内と「梅ケ枝モチ」を久方ぶりに食べましたが、少年期の味には程遠く、先日戴いた伊勢の「赤福」の味が身近に覚えてなりません!

昨日は風邪をこじらせた井上君を除き、中 島君と古賀に電車で行き、三人で夕方まで一 杯飲みながら、四方山話で楽しい一時を過ご しました。

話題は何と言っても戦後の苦楽「西南Rugby 初優勝」の思い出や、不出生の人物像「速水チャン」追憶談義で、国鉄勤務を犠牲にしてまで「西南Rugby」に尽くし、晩年全国大会遠征目前に箱崎国道での「輪禍死去」には、関係者の悲嘆を喚起してます。私は丁度「ナイガイ」から東洋紡績に転職し、私担当「本支店企画会議」開催を控え帰福出来ず、1週間後に箱崎国道筋の国鉄官舎のご位牌にお参りしましたが……。

許山兄は復員復学を迷った頃、箱崎神宮大 鳥居近くで伝チャンに遭遇、西南 Rugby 再 建と説得され早速に復学を決意したとの事で す。

中島君は修猷3年生で予科練入隊(鹿児島)戦後修猷復学、水泳・柔道をしていたとの事。西南入学後水泳友達の新免君の誘いで、西南Rugby 初体験「苛酷なRugby」に耐えられず何度も辞めたかったが、新免君の再三の誘いで仕方なく過ごしたが、格闘技の魅力を感じ始めて仲間入り。卒後「配炭公団」入社でRugby 開眼、早稲田Rugbyに進学。卒業後、八幡製鉄入社。「全国大会優勝」組、彼は西南・配炭・早稲田・八幡と「全国優勝」体験し、誠にLuckyなRugby人生」と感謝していました。

単身生活にも慣れ、「謡曲」で発声練習、 老人介護をうけ感謝の晩年との事でした。お 互い心ゆるす「仲間との会合」が一番の楽し み、飲食は別として「団欒」が薬です。

どうか体調管理して仲間との再会を期して ください!

以上近況報告いたしました。



1953 年 9 月 13 日 (雨のゲーム) ケンブリッジ大学対全慶応大学 (14 対 3) 左から加藤、斉藤、本城 (前列〇印)

# ●斉藤・加藤・本城選手のこと

# 記念切手になった 斉藤選手

\*詳細は91頁に掲載

西南ラグビー OB・49 期の斉藤守高・加藤 仁・本城瑞穂の3名の新聞記事がある。こ の3名は西南学院の昭和22・23・24年全国 大会三連覇を果した主力選手であったが、西 南卒業とともに慶応に進学し、ラグビーを続 け、昭和28年9月英国ケンブリッジ大学初 来日の時、第二戦で慶応大学と対戦。慶応メ ンバーに加藤・斉藤・本城の記録がある。

これは当日のスポーツニッポンの記事である。戦後記録的な全国三連覇を果たした西南の力が窺える。

# ●想い出の記

ケンブリッジ大学来日第2戦、対慶大のラグビー戦は13日午後4時から青山の秩父宮グラウンドで、クーパー主審のもとにケ大先蹴で行われた。

この日はあいにくと天候悪く、グラウンド・コンディションは不良で、従って両軍プレーヤーの足が滑り、好プレーがとぎれ勝ちだった。

なお来賓席には高松宮様、三笠宮と秩父宮 妃殿下をはじめ、デュング英大使が観戦し た。

試合は前半、青山側から吹く約4メートルの風上に陣して全慶大が好ダッシュを見せたが、後半は逆に体力にまさるケ大が底力を見せ、全慶大の追撃を14-3で振り切って勝った。

前夜来の降雨のため、グラウンドは軟弱となって両軍のプレーが14-3と接近したのは慶大の善戦にもよるが、こうした悪条件のため、いきおい試合がFW戦となってしまったためである。キックオフ後ケンブリッジは、慶大の右ゴール前に再度TBパスから攻め込み、2度右のWTBがクロスキックを開け、チャンスを迎えたケンブリッジはこのTBの定石であるクロスキックで慶応のゴール前に迫ったが、ついに5分、30ヤードから右のセンター、ダルグリッシュが左へボールを回し、ドオのトライとなった。

この2つのクロスキックは、レフェリーの クーパー氏は明らかにケンブリッジ FW が オフサイドにもかかわらず見のがしてしまっ た。スタンドから見た右のウイングと FW の位置とはたしかに 5 ヤード以上もあり、ま さに『上手の手から水』というところであ



後半ケ大陣25ヤードに攻め込んだ加藤 タックルに阻まる

慶 大  $3\begin{pmatrix} 3-6\\0-8 \end{pmatrix}$  14 ケンブリッジ大



る。慶応としては痛い見のがしであり、ケンブリッジはこのあとドオのあっけないプレーで幸先よい3点を先行した。しかし慶大もこれに気遅れせず、積極的に攻撃を続けたのはさすがである。

22分、慶大はケンブリッジの左ゴール前にFWのドリブルとキックで迫り、ここで再三ルーズを繰り返して美川がトライを返した。これで3-3の同点である。この前後の慶大は確かにケンブリッジにまさる動きを見せ、スタンドの観衆もかたずをのんだ。

しかし接戦のうちにもケンブリッジは TB と FW とのコンビは見事で、キックに対す る FW のラッシュは遂に 25 分、W・デービスのトライとなった。このトライは慶大陣40 ヤードからダルグリーシュがパントし、W・デービスはそのままとってのあざやかなトライである。かくして試合は再びケンブリッジが 6 - 3 とリードして、後半戦に興味をつないだ。

サイドを変えるや、ケンブリッジが風上となり、スタンド・オフのK・デービスのパントは右のグローブが巧みに見せて右中間のトライとなった。

これはゴールとなって11 - 3である。これに元気を得て、ケンブリッジはまたもやクロスキックからダルグリーシュのトライで14 - 3とようやく試合の見えた観がある。この間両軍FWを比較するに、タイト、モール、ラインアウトとともにケンブリッジは7割のボールを支配下において雨中とはいいながら彼らのTBパスは、或いは速く、或いは近く一度走り出すと全く止まるのを知らず好ダッシュを見せた。

慶大バックスもこのスピードにのったケン ブリッジのバックスに対し果敢なタックルを 見せたが、ケ大が獲得した4つのトライはど うにも防ぎようのないものであった。

後半の終り、慶大がしばしばケンブ リッジのゴールに迫りながら、ドロッ プアウトになったプレーはあきらめら れぬものがあったろう。

特に斉藤のインターセプトに続き、 龍野が快走して左ゴール隅に突っ込み ながら、ドロップアウトととなったの は惜しまれるプレーである。 慶大はこのようにしてケンブリッジに善戦をしたが、結局 FW 戦で7:3の出来ではどうにもならず、せめて5分に闘ったら、もっとクロスゲームになっただろう。これらから見ても、次回の明治、早稲田は FW 力とバックスの突進力がまさるだけにケンブリッジも相当苦戦すると思う。

なおこの日セブンの慶大システムも降雨の ためシステムの面白さが失われたのはいかん であった。ただ攻撃はともかく防御面では確 かにプラスであった。

(「スポーツニッポン | より)

このうち、後半の記事を罫線で施した部分を読んでいただきたい。斉藤がインターセプトして40ヤード独走し、龍野にパス、快走をしたがゴール寸前にタックルに会い、ドロップアウトとなった。この独走のスポット写真が郵政省の採用するところとなり、第8回国体(昭和59年)の記念切手となったものである。



第8回国体記念切手 斉藤選手の勇姿

# 第50期 (1949年度)

## 50 期メンバー

■ 3 年生 西村 強三・日下部信行

小林 恒美・桜井 一正

猿渡 啓一・内藤 正道

大塚 正道・三宅 秀夫

■2年生 横野 信義·坂本 譲

宗 博之・高橋 逸郎

満田 譲二・吉田 喜剛

本城 瑞穂・松下 博之

三隅 哲夫・宮下 正義

■1年生 森 明

学制改革に伴ってすべて新制度の整備年間であったと思うが、すべてのオフィシャルゲームはなかった。同級生の誰に聞いても記録を持たない。ただ、来年の新制大学大会に備え、西村主将のもと練習につめて、門鉄、福大、三井染料などの試合を真剣に戦った記憶はある。

また、シーズン途中に三隅さんの事件がお こった事は記憶に新しい。

## ●想い出の記

# 迷惑ラグビークラブ創立の裏話

昭和24年卒·中村 孝(福大OB)

その名付け親は、故速水伝吉先輩、である。 この事をご存知の方は、殆んど他界されていると思う。、速水さん、の親友である、内田仁先輩のお供で、とある料亭に足を運んだ。会場には川津、松隈、安武(何れも故人)の先輩が既に着席されていた。 挨拶も早々に、川津先輩より「今日の議題は既に達した通り、関東に"不惑クラブ。(40にして惑わず)があり、関西は「それなら関西の"ほんち、は惑いに惑うという事で、惑惑クラブが名乗りを挙げている。九州は名称をどうするか?」などの説明及び種々の提案があり、諸先輩方が頭を捻り、各人が考えられた名称を提案されたが、何れも駄目。川津先輩より「孝君、先では君も超 OB 組に入るのだから、考えてくれ!」と矛先が小生にも向いてくる始末でした。

そんな空気の中、「ああ! 喉が渇いた。 腹も減った。ほんに \*迷惑、なこっちゃ」 と速水先輩のヒソヒソ声。「伝ちゃん! 今 何て言うた? 迷惑とか言うたごと聞えたが ......」

そうだ! 迷惑・迷惑・迷惑クラブ! これは良か、良か……と川津先輩大喜び、全員これで決定。博多の「手一本、おお! シャンシャン」で皆大満悦!

森の石松じゃあないが……飲みねえ、喰いねえの祝宴となり、速水さんは「瓢箪から駒が出たとはこの事か、俺も満更捨てたものじゃあなかねえ」と大喜び! (大体、トンチ・ウイットの持主でしたが……)

内田仁先輩が「伝チャン、終ったらあそこに行くぞ!」と両巨頭ヒソヒソ打ち合わせ。 後はどうなったか知る由もなし……。

今、速水大監督の在りし日の面影を偲ぶ事は喜びでもあり、悲しみでもあり、速水さんは雄弁でもなく、少々辛口も出たが寧ろ訥々として語る人でもあった。

他校の OB である私が、大先輩の事につい て語るのは差し控えるとして、九州ラグビー 界、また学生ラグビーの指導者としての \*功 績、\*人間性、は筆舌では言い表せませんが、 九州否、日本ラグビー界に於いても、後世に まで語り継がれるべき人柄の事でしょう。ど うか安らかにお眠りください。

# 三隅哲生選手の救出

昭和26年·坂本 譲

昭和24年5月頃のことと思う。西南ラグ ビー部現役選手三隅さんが突然警察に逮 捕されて、学校に来れなくなった。

部員一同集って色々と話し合ったが、「ど うも南方戦線で米軍との間に何かあったらし い。原住民の告発が原因らしい」といったこ と位しか分らない。その内、段々と分ってき て、三隅さんがその責任者と目され、今回の 逮捕劇につながったとの結論であった(三隅 さんは、学徒出陣帰還のもと陸軍少尉)。

我々部員は早速集った。何をすべきか、ど うするべきか、とにかく相手は「極東軍事裁 判」。相手が大きすぎる……どんな組織でど こに訴えるかも分らない……途方に暮れる数 日……とにかく、救出の嘆願文を書こう。先 ずそれが一番、次のことは次のこと……。早 速同期生が寄って作成にとりかかった。誰か 秀才が居ったのだろう。数日して出来上った 「嘆願書」。よし、早速英訳という段取りに なった。勿論、私どもの力ではとても駄目と いうことから、これを英語の先生に頼みに行 こうということになった。早速A教授のもと へ行き、かくかく、しかじか……と説明する。一読後、教授曰く、「ウーン、これはB教授へ相談したらどうかと思う」。即、B教授を訪問すると、大体同じ返事。なかなかはっきりした返事がない。これで私どもはあきらめた。これでは時間が足りなくなる、困ったものだ。

その時、私どもは誰ということなく「マダム山永」はどうかな、ということになった。 当時、私どもにとって、「マダム山永」とは "RIP. VAN. WINKLE"という小説を教材 にして英会話を学んでいた先生で、とても チャーミングな先生であった。私どもラグ ビー部は、ちょいちょい私宅にお邪魔してココアやクッキーの類をご馳走になっていた。 何もない時代、特に甘い物は学生にとって魅力充分であった。

授業ではなく、日頃のこういった結びつきから気がついて、とにかくマダム山永のところに赴いた。おかしいことに私どもは、マダム山永としか覚えていない。今調べてみて、どうやら「山永百合子」と仰る方と分った次第。「こんにちはマダム、実は、三隅さんの助命嘆願文についてですが……」と手短にお願いした。「あっ、そう」、彼女の軽やかな返事。部屋にあったタイプの前にお掛けになった。「オヨミナサイ」「ハアー?」「それをお読みなさいよ」「エッ」

私どもは、1日ぐらい預けて帰る積りであった。ところが、「そこで嘆願文をお読みなさい」という指示であった。早速読んだ。マダムはそのまま、タイプ。「どんどん、読みなさい」少々不信感も覚えながら読む。マダムはそのままタイプを打ち続ける。「……

# ●想い出の記

何卒よろしくお願い申し上げます」

読み終わったとほとんど同時に、チーンというタイプの音! タイプも打ち終えられていた。これで出来たから一番下にW.M.ギャロット院長のサインを貰って送りなさい。まず読んだ日本語をそのままタイプに打つ早さに驚き、次にその宛名を見てビックリした。

"Mr. Douglas MacArthur"

General も何もない。ああ、なんと簡潔で 直截な手紙かと思った。初めは堅苦しい嘆願 分文と思っていたが、受け取った英文書は、 手紙という感じであった。早速同級生の誰か が W. M. Garot と署名をいただいて送った。 その結果、早々に誤解が解けたらしく、翌年 三隅さんは帰ってきた。昭和25年センター として吉田君と組んで試合をした。マダム山 永……、この先生は私どもラグビー部の大恩 人。三隅さんにとっては命の恩人であった。

それにしても、三隅さんの運の強さよ。彼 が西南でラグビーをしていなければ、彼の運 命はどうなったか分らない。

私共の大恩人山永百合子講師(英語学)は、 当時、夫君山永武雄教授(歴史神学)ととも に西南学院大学に勤めておられた。後に、夫 君は横浜フェリス学園に転じ学長を務められ た。夫君は既に亡くなられているが、ご本人 はご健在(当年95)である。 御照会申し上げたところ、

「記憶にはないが、そのような件はチョイ チョイやっていましたので、私ではないか と思う。しかし、なんといっても私も 95 才 ……」

というお返事であった。

#### 合宿に散った魚住功君 (修猷館)

夏合宿の8月9日、我々西南学院は 修猷館と練習試合を行った。その試合 で魚住君は死亡。

西新病院に入院した彼は、修猷館、 西南学院大、同高校全選手が医師の指 導によって全力をあげて人工呼吸を施 したが遂に帰らぬ人となった。

竹の筒に10円、20円と小遣い銭を詰め込んで合宿参加をしたという彼。花園を目標にラグビーに打ち込んだ彼の事を思い、葬儀場で目に焼きついた彼の戒名「青空殉球善士」は、今も忘れられない。

**魚住君、どうか安らかに眠ってくだ** さい。